

中世の日記・紀行文の形容詞

村田 菜穂子*¹ 前川 武*²Adjectives in a Diary and an Account of Travel
in the Middle AgesNahoko Murata *¹ Takeshi Maekawa *²

キーワード

形容詞、中世、日記、紀行文、語彙表、語彙史

I はじめに

語彙研究および語彙史研究の立場から、これまで上代から中世に亘る日本語形容詞・形容動詞語彙について、〔1〕語構造論および造語論の両観点から分析を行って、一つ一つの語の語構成を記述するとともに、〔2〕当該語彙の史的の研究のための基礎資料としてさまざまな語彙表をこれまで作成・公表してきた^(注1)。また、一方では、語彙研究および語彙史研究分野の進展のための有益な資料となるべく、〔1〕および〔2〕の情報を蓄積したデータベースシステムを構築し、本資料を基にコンピュータによる量的データの分析的研究・実証的研究を行い、最終的には、「形容詞の語構成史」および「形容動詞の語構成史」を築き上げて、従来の研究方法では得られなかった知見を得ることを目標にこれまで研究を進めてきた^(注2)。

中世後期から近世にかけての言語資料については、まず、中世後期の形容詞を概観する資料として、『時代別国語大辞典 室町時代編』と『邦訳 日葡辞書』を取り上げ、同辞典・辞書に採録された形容詞の一覧を作成し、次に、中世後期から近世初期に用いられた形容詞の使用頻度等について調査すべく、「狂言の台本」5作品及び「キリシタン資料」4作品を取り上げて対照語彙表を作成した^(注3)。

その後、それまで取り上げてこなかった中世の作品に用いられた形容詞の使用頻度等を調査すべく、中世初期の擬古物語4作品を取り上げて対照語彙表を作成した^(注4)。

本稿では、さらに中世の作品について調査すべく、擬古物語に続き、中世の日記・紀行文『海道記』『東関紀行』『うたゝね』『とはずがたり』『竹むきが記』の5つを取り上げ、どのような形容詞がどの作品にどれくらい使用されているかが一覧できる形式にて対照語

*1 むらた なほこ：大阪国際大学国際教養学部教授（2015.9.25受理）

*2 まえかわ たけし：大阪国際大学短期大学部教授

彙表を作成した。

Ⅱ 凡例

[1] 見出し語の配列

歴史的仮名遣いにより五十音順に配列する。

[2] 見出し語形の統一

意味の違いに関係しない読み方・発音の違いは同一語とみなし合併して採る。同一語・別語の認定は『古語大事典』〔小学館〕・『日本国語大辞典』〔小学館〕に拠る。

①子音交替形または母音交替形

例：ねむたし⇔ねぶたし (m ⇔ b)

②撥音の表記に関わるもの

例：やごとなし⇔やむごとなし

③促音を挿入したもの

例：にっくし⇔にくし

④その他

例：ゆきがたし⇔いきがたし

[3] 助詞・助動詞（補助動詞を含む）を介在させている語および接頭辞が付いた語の扱い

助詞・助動詞（補助動詞を含む）を介在させている語形、および接頭辞が付いた語形は次のように扱った。

(1) 助詞・助動詞（補助動詞を含む）を外した語形が存在する場合は、助詞・助動詞（補助動詞を含む）を外した語と合併して採る。

例…つきもなし→つきなし、きょくもなし→きょくなし等。

(2) 助詞・助動詞（補助動詞を含む）を外した語形が存在しない場合は、助詞・助動詞（補助動詞を含む）を外した語形を仮の語形として設定し立てる。

例…せんかたなし→するかたなし等。

(3) 接頭辞の付いた語の扱い

例…おなごりをし→なごりをし、ごもったいなし→もったいなし

のように、接頭辞を外した語形で採る。

[4] 複合語の扱い

名詞＋形容詞（例…よふかし・しふしんふかし）や動詞連用形＋形容詞（例…をりがたし・はひりにくし）等は切り離さず複合的な単位として認め、一語として扱う方針によって形容詞を選出した。これは、形容詞の造語法として複合語の産出が新語形成の一端を担っている事実を重視したことに拠る。

[5] 漢字

各形容詞の主な意味を表すために適宜振ったもの。

[6] 活用

各見出し語がそれぞれ何活用の形容詞であることを示したもの。

[7] 作品ごとの出現数

各見出し語がそれぞれの作品で出現した数を示したもの。

表中の作品名は、「はじめに」の下線部で示したもので記した。

[8] 既存の七資料における出現状況

各見出し語がどの資料に使われているかを簡潔に示すべく、その見出し語が使われた資料に○を施した。

既存の七資料とは、【上代資料】【訓点資料】【八代集】【中古散文作品】【軍記物語】【今昔物語集】(注1参照)及び【擬古物語】(注3参照)を指す。(表中では、下線部で示したもので略記した)

Ⅲ 調査に際して使用した資料

『海道記総索引^(注5)』

『東関紀行 本文及び総索引^(注6)』

『うたゝね本文および総索引^(注7)』

『とはずがたり総索引 自立編^(注8)』

『竹むきが記総索引^(注9)』

【付記】

本稿は、日本学術振興会平成25-27年科学研究費補助金(基盤研究(C)、課題番号25370533)による研究成果の一部である。

注1 上代から中世の資料を対象にこれまでに作成・公表した語彙表を、対象とした作品および作品群(【 】で囲んだもの、以下同じ)毎に示す。なお、各作品群に含まれる作品は次のとおりである。

【上代資料】

『時代別国語大辞典上代編』に立項されている形容詞のうち、東歌・防人歌に使われている東国語方言の語や複合形容詞中にのみその存在が確認される語を除き、万葉集・古事記(仮名書き部分)・日本書紀(同)・風土記(同)・続日本紀宣命・祝詞に用例のあるものを上代形容詞として認めた。

【中古散文作品】

『竹取物語』『土佐日記』『伊勢物語』『平中物語』『大和物語』『多武峯少将物語』
『篁物語』『宇津保物語』『蜻蛉日記』『落窪物語』『和泉式部日記』『枕草子』『源
氏物語』『紫式部日記』『堤中納言物語』『夜の寝覚』『浜松中納言物語』『更級日
記』『狭衣物語』『大鏡』『讃岐典侍日記』『とりかへばや物語』

【八代集】

『古今集』『後撰集』『拾遺集』『後拾遺集』『金葉集』『詞花集』『千載集』『新古
今集』

【訓点資料】

『興福寺本大慈恩寺三蔵法師伝古点』『神田本白氏文集卷第三・四』『高山寺本古
往来』

【今昔物語集】

『今昔物語集』

【軍記物語】

『保元物語』『平治物語』『平家物語』

以下は、作品または作品群毎の語彙表

【中古散文作品】

「中古散文作品における形容動詞対照語彙表」『大阪国際女子大学紀要』26-2
[2001・3]

【上代資料】【八代集】【中古散文作品】

「古代語形容詞の語構成」『大阪国際女子大学紀要』27-1 [2001・9]

「古代語形容詞逆引き対照語彙表」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』16-1
[2002・10]

【訓点資料】

「訓点資料の形容詞の語構成」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』17-1 [2003・10]

【上代資料】【八代集】【中古散文作品】【訓点資料】

『形容詞・形容動詞の語彙論的研究』[2005・11 和泉書院]

【今昔物語集】

「今昔物語集の形容動詞対照語彙表」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』18-2
[2005・1]

「今昔物語集の形容詞対照語彙表—天竺・震旦部—」『大阪国際大学紀要国際研究
論叢』22-3 [2009・3]

「今昔物語集の形容詞対照語彙表—本朝仏法部—」『大阪国際大学紀要国際研究
論叢』23-1 [2009・10]

「今昔物語集の形容詞対照語彙表—本朝世俗部—」『大阪国際大学紀要国際研究
論叢』23-2 [2010・1]

【軍記物語】

「軍記物語の形容動詞対照語彙表」『帝塚山学院大学日本文学研究』38 [2007・2]

- 「軍記物語の形容詞対照語彙表」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』21-3[2008・3]
【上代資料】【八代集】【中古散文作品】【訓点資料】【今昔物語集】【軍記物語】
「改訂・増補 古代語形容詞の語構成—上代～中世編—」『帝塚山学院大学日本文学研究』41 [2010・2]
「改訂・増補 古代語形容詞逆引き対照語彙表—上代～中世編—（前編）」大阪国際大学紀要国際研究論叢』24-3 [2011・3]
「改訂・増補 古代語形容詞逆引き対照語彙表—上代～中世編—（後編）」大阪国際大学紀要国際研究論叢』25-1 [2011・10]
『「形容詞対照語彙表」補遺』『大阪国際大学紀要国際研究論叢』23-2 [2010・1]
なお、【上代資料】【中古散文作品】【八代集】の形容詞についての語彙表は、村田菜穂子著『形容詞・形容動詞の語彙論的研究』[2005・11 和泉書院]にも収録している。

注2 これまでの研究成果を、対象とした作品または作品群毎に示す。

【上代資料】

「上代形容詞の語構成」『国語語彙史の研究』20 [2001・3 和泉書院]

【八代集】

「八代集の形容詞—語構成論的考察—」『帝塚山学院大学日本文学研究』32 [2001・2]

「八代集の形容詞—語彙の計量的分析—」『甲南国文』48 [2001・3]

【中古散文作品】

「ゲナリ型形容動詞—造語力拡大の様相について—」『国語語彙史の研究』18 [1999・3 和泉書院]

「平安時代の形容動詞—ゲナリと～カナリ—」『国語学』52-1 [2001・3]

「中古散文の形容詞—語彙の数量的分析—」『表現研究』74 [2001・10]

「古代語形容詞の造語形式—中古散文の形容詞を中心に—」『帝塚山学院大学日本文学研究』33 [2002・2]

「中古散文22作品の類似度の測定」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』21-1 [2007・10]

「中古散文22作品の分類についての一試み」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』23-3 [2010・3]

「形容詞から見た中古散文二二作品のグループ化についての試み」『国語語彙史の研究』33 [2014・3 和泉書院]

「索引とコーパスを利用した形容詞語彙の採取について」『国語語彙史の研究』34 [2015・3 和泉書院]

【八代集】【中古散文作品】

「中古形容詞における特有語の性格」『帝塚山学院大学日本文学研究』36[2005・2]

「中古形容詞に見られる複合的方式についての一考察」『国語語彙史の研究』34 [2015・3 和泉書院]

【上代資料】【八代集】【中古散文作品】

「語構造から見た古代語形容詞一二つの系列一」『帝塚山学院大学日本文学研究』34 [2003・2]

「古代語形容詞の語構造分析についての一考察」『国語語彙史の研究』22 [2003・3 和泉書院]

「古代語形容詞の階層構造」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』16-2 [2003・3]

「上代形容詞の継承性と中古新出の形容詞」『滋賀大國文』41 [2003・7]

「形容詞・形容動词语彙の量的構成—中古散文作品を中心に—」『日本語学』25-5 [2006・4]

「形容詞の生産性に関する一考察」『表現研究』86 [2007・10]

「ク活用形容詞とシク活用形容詞の量的性格と語構成」『国語語彙史の研究』28 [2011・3 和泉書院]

【上代資料】【八代集】【中古散文作品】【訓点資料】

「訓点資料の形容詞—語彙の量的性格—」『帝塚山学院大学日本文学研究』35 [2004・2]

「中古形容詞の量的性格—既存の形容詞と新出の形容詞—」『滋賀大國文』42 [2004・7]

『形容詞・形容動詞の語彙論的研究』[2005・11 和泉書院]

【今昔物語集】

「今昔物語集の形容動詞—語種からの分析を中心に—」『国語語彙史の研究』24 [2005・3 和泉書院]

「今昔物語集の形容動詞—～ゲナリと～カナリ(一)—」『滋賀大國文』43 [2005・7]

「今昔物語集のカナリ型形容動詞」『帝塚山学院大学日本文学研究』37 [2006・2]

【軍記物語】

「軍記物語の形容動詞の一考察」『国語語彙史の研究』26 [2007・3 和泉書院]

「軍記物語の形容詞についての一考察」『国語語彙史の研究』28 [2009・3 和泉書院]

注3 中世後期から近世にかけての言語資料を対象とした研究成果を、対象とした作品または作品群毎に示す。なお、各作品群に含まれる作品は次のとおりである。

【時代別国語大辞典 室町時代編】

『時代別国語大辞典 室町時代編』

【邦訳 日葡辞書】

『邦訳 日葡辞書』

【狂言台本】

『天正狂言本』『虎明本』『虎清本』『狂言六義』『狂言記』

【キリシタン資料】

『天草本平家物語』『エソポのハブラス』『天草本金句集』『コリヤードさんげろく』

以下は、作品または作品群毎の語彙表

【時代別国語大辞典 室町時代編】

「時代別国語大辞典 室町時代編の形容詞」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』
25-2 [2012・1]

【邦訳 日葡辞書】

『邦訳 日葡辞書』の形容詞『大阪国際大学紀要国際研究論叢』26-1 [2012・10]

【狂言台本】

「狂言の形容詞」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』27-2 [2014・1]

【キリシタン資料】

「キリシタン資料の形容詞」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』27-3 [2014・3]

【狂言台本】【キリシタン資料】

「狂言・キリシタン資料の形容詞の語構成」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』
28-1 [2014・10]

注4 「擬古物語の形容詞」『大阪国際大学紀要国際研究論叢』29-1 [2015・10]

なお、対象とした作品は次のとおりである。

『松浦宮物語』『山路の露』『風に紅葉』『木幡のしぐれ』

注5 鈴木一彦・猿田知之・中山緑朗 共編 [1976・11 明治書院]

注6 江口正弘監修・熊本女子大学国語学研究室編 [1977・10 笠間書院]

注7 阿仏尼原著、次田香澄・酒井憲二 編著 [1976・2 笠間書院]

注8 辻村敏樹 編 [1992・5 笠間書院]

注9 渡辺静子・市井外喜子 編 [1993・9 笠間書院]

国際研究論叢

中世の日記・紀行文の形容詞

NO.	上代	訓点	八代	中古	軍記	今昔	擬古	見出し語	漢字	活用	海道記	東関	たね	とはず	竹むき	
1				○		○	○	あいなし		ク					6	
2		○	○	○	○	○		あかし	赤	ク					1	1
3	○		○	○	○	○	○	あかし	明	ク					2	
4	○	○	○	○	○	○	○	あさし	浅	ク	4				9	1
5			○	○	○	○	○	あさまし	浅	シク	3				34	6
6	○		○	○	○	○	○	あし	悪	シク			1		8	
7		○	○	○	○	○	○	あたらし	新	シク		1			4	
8			○	○	○	○	○	あぢきなし	味気無	ク					12	
9	○	○	○	○	○	○	○	あつし	厚・敦	ク	1				1	
10			○	○			○	あとなし	跡無	ク		1			5	
11								あはれふかし		ク						1
12		○	○	○			○	あひがたし	逢難	ク						1
13							○	あぶなし	危	ク			2			1
14				○	○		○	あへなし	敢無	ク	1				4	2
15	○	○	○	○	○	○	○	あまねし	遍・普	ク		1			1	
16	○	○	○	○	○	○	○	あやし	靈異・奇・怪	シク		2			14	3
17		○	○	○	○	○	○	あやふし	危	ク	1	1				
18	○	○	○	○	○	○	○	あらし	荒・疎	ク		1			2	
19				○			○	あらまし	荒	シク	1					
20	○			○	○	○	○	ありがたし	有難	ク	1	3			6	4
21				○				ありよし	有良	ク					1	
22				○	○		○	あわたたし	慌	シク						2
23	○	○		○	○	○	○	あをし	青	ク	1	2			6	3
24				○				いぎたなし	寝汚	ク					1	
25		○			○		○	いそがはし	忙	シク	1	1				
26	○	○	○	○	○	○	○	いたし	痛・甚	ク	2	1	1		33	8
27	○	○		○	○		○	いたはし	労	シク					6	
28					○	○		いたまし	痛	シク	1					
29	○	○		○		○	○	いつくし	厳	シク	2					
30							○	いつとなし		ク					7	
31		○	○	○	○		○	いとけなし	幼	ク	1				4	
32			○	○	○		○	いとどし		シク						6
33	○		○	○		○		いとはし	厭	シク					1	
34	○		○	○	○	○	○	いとほし	労・愛	シク					1	
35		○	○	○		○	○	いとまなし	暇無	ク					2	
36				○			○	いはげなし	稚	ク					1	
37								いはれなし	謂無	ク					2	
38				○		○	○	いふかたなし	言方無	ク					10	10
39				○	○	○	○	いふかひなし	言甲斐無	ク					6	
40	○		○	○	○		○	いぶせし	鬱	ク	1				5	2
41								いふばかりなし	言	ク					2	
42				○	○	○	○	いまいまし	忌忌	シク					2	
43				○				いまだし	未	シク	1					
44				○	○	○	○	いまめかし	今	シク					1	
45				○	○	○	○	いみじ		シク		1			6	35
46	○	○	○	○	○	○	○	いやし	賤・卑	シク		3			3	
47								いらへんかたなし		ク						1
48		○	○					いろなし	色無	ク					1	

中世の日記・紀行文の形容詞

NO.	上代	調点	八代	中古	軍記	今昔	擬古	見出し語	漢字	活用	海道記	東関	うたいね	とほず	竹むき
49	○		○	○	○	○	○	うし	憂	ク	3	1		44	5
50			○	○	○	○	○	うしろめたし	後不安	ク			2		
51			○	○		○		うしろめたなし	後不安	ク				1	
52	○	○	○	○	○	○	○	うすし	薄	ク	2	1		5	1
53				○	○		○	うたてし		ク				2	
54								うちすてがたし	打捨難	ク				1	
55	○		○	○	○	○	○	うつくし	愛・美	シク				5	2
56								うつつなし	現無	ク				2	
57		○	○	○	○	○	○	うとし	疎	ク	6			2	1
58			○	○	○	○	○	うとまし	疎	シク				1	1
59			○					うへなし	上無	ク				1	
60			○	○			○	うらなし	心無	ク				1	
61	○		○	○	○		○	うらめし	恨・恠	シク	1			6	3
62			○	○	○	○	○	うらやまし	羨	シク	1			8	1
63	○		○	○				うらわかし	若	ク	1				
64				○		○	○	うるさし		ク				2	
65	○	○		○	○	○	○	うるはし	麗・美	シク				2	3
66	○		○	○	○	○	○	うれし	嬉・歎	シク		1		28	7
67		○	○	○		○	○	おきどころなし	置所無	ク				7	2
68				○			○	おくゆかし		シク		1			
69					○		○	おさへがたし	抑難	ク	2	1		1	
70	○	○	○	○	○	○	○	おそし	遅・鈍	ク				3	
71			○	○	○	○	○	おそろし	恐	シク				22	3
72				○	○	○	○	おとなし	音無	ク				3	
73	○			○		○	○	おどろおどろし		シク					3
74	○	○	○	○	○	○	○	おなじ	同	シク	12			48	62
75	○	○	○	○	○	○	○	おほし	多・大	ク	3	12		32	11
76				○	○	○	○	おほし	思	シク		2	1	5	
77	○		○	○	○	○	○	おほつかなし	覚束無	ク	1	3		12	
78	○	○	○	○	○	○	○	おもし	重	ク	2	1		5	2
79	○		○	○	○	○	○	おもしろし	面白	ク	1	2		19	4
80				○			○	おもだたし	面立	シク				1	
81								おもひうるかたなし		ク					1
82								おもふばかりなし	思許	ク				3	
83				○	○		○	およびがたし	及難	ク	1				
84				○				かうがうし	神神	シク				1	1
85		○		○	○	○	○	かうばし	香	シク	2				
86								かきながしがたし	書流難	ク		1			
87		○	○	○	○	○	○	かぎりなし	限無	ク				3	
88			○	○	○	○	○	かくれなし	隠無	ク				3	1
89								かこつかたなし	託方無	ク				8	
90			○	○	○	○	○	かしかまし	囂	シク					1
91	○	○	○	○	○	○	○	かしこし	恐・畏・賢	ク	2	1		4	1
92		○						かずおほし	数多	ク					2
93	○	○	○	○	○	○	○	かたし	固・堅	ク				2	
94	○	○	○	○	○	○	○	かたし	難	ク	1				2
95	○	○		○	○	○	○	かたじけなし	辱・忝	ク		1		7	
96				○	○	○	○	かたはらいたし	傍痛	ク				1	2
97	○	○	○	○	○	○	○	かなし	悲・哀・愛	シク	2	2		102	11

国際研究論叢

NO.	上代	調点	八代	中古	軍記	今昔	擬古	見出し語	漢字	活用	海道記	東関	うたね	とはず	竹むき
98				○	○	○		かなひがたし	適難	ク					2
99				○		○	○	かはゆし		ク					1
100			○	○	○	○	○	かひなし	甲斐無	ク		1			9 2
101	○	○		○				かほよし	端正・麗	ク	2				
102		○			○	○		かまびすし	喧・囂	ク	1				
103								からげにくし		ク					1
104	○		○	○	○	○	○	からし	辛・鹹・酷	ク					1 1
105		○		○	○	○	○	かろし	軽	ク					3
106								きうしがたし	休難	ク	1				
107								ききどころなし		ク					1
108								ききわきがたし	聞分難	ク		1			
109				○		○	○	きたなげなし	汚気無	ク					1
110		○		○		○		きはまりなし	極無	ク		1			
111		○		○	○	○	○	きびし	厳・密	シク	2	2			1
112	○	○	○	○	○	○	○	きよし	清	ク	1	1			6
113	○			○		○	○	きらきらし	端正	シク					2
114		○	○	○		○		くさし	臭	ク					1
115				○	○	○	○	くちをし	口惜	シク					8
116			○	○	○		○	くまなし	隅無	ク					1
117			○	○			○	くもりなし	曇無	ク		1			2
118	○		○	○	○	○	○	くやし	悔	シク					7 1
119	○	○	○	○	○	○	○	くらし	暗	ク	3	3			5 1
120	○	○	○	○	○	○	○	くるし	苦	シク	4	1			14 2
121	○	○	○	○	○	○	○	くろし	黒	ク					2 1
122	○	○				○	○	けがらはし	汙穢・穢	シク	1				
123	○			○	○	○	○	けし	異・怪	シク					6
124				○	○	○	○	けだかし	気高	ク		1			1
125		○		○	○	○		けはし	険	シク	1	1			
126				○		○	○	けやけし		ク	1				
127				○				こぐらし	木暗	ク		1			
128				○	○	○	○	こころうし	心憂	ク	1				8
129				○				こころうつくし	心愛	シク					1
130				○			○	こころぎたなし	心汚	ク					2
131				○			○	こころぎよし	心清	ク					4
132	○			○	○	○	○	こころぐるし	心苦	シク					13 1
133				○		○	○	こころすごし	心凄	ク		3			
134				○		○	○	こころづきなし	心付無	ク			1		3
135				○	○	○	○	こころづよし	心強	ク					3
136	○	○	○	○	○	○	○	こころなし	心無	ク	7				4 1
137				○	○	○	○	こころにくし	心憎	ク	1	2			
138			○	○	○	○	○	こころぼそし	心細	ク	1	8			10 6
139			○	○	○	○	○	こころもとなし	心許無	ク					6 1
140			○	○	○	○	○	こころやすし	心安	ク					3 1
141				○			○	こころやまし	心疚	ク					2
142		○		○	○	○	○	こころよし	心悪	ク					7
143			○	○	○	○	○	こころよわし	心弱	ク	1				1 2
144								こころわろし	心悪	ク					1
145			○	○	○	○	○	こし	濃	ク					10 9
146		○						ごしがたし	期難	ク	2		1		

中世の日記・紀行文の形容詞

NO.	上代	調点	八代	中古	軍記	今昔	擬古	見出し語	漢字	活用	海道記	東関	うたい	とほず	竹むき
147	○		○	○	○	○		こだかし	木高	ク					1
148	○			○			○	こちたし	言痛・事痛	ク				1	
149				○	○			こちなし	骨	ク				1	
150				○				ことあし	事悪	シク				1	
151			○	○		○	○	ことごとし	事事	シク		1		6	3
152			○	○	○			ことしげし	言繁・事繁	ク				4	2
153	○	○	○	○	○	○	○	ことなし	事無	ク				2	
154								ことなることなし		ク					1
155				○		○		このまし	好	シク					1
156				○				こはごはし	強強	シク				1	
157	○	○		○	○		○	こはし	強	ク				1	
158	○		○	○	○	○	○	こひし	恋	シク	7	2		6	
159				○		○	○	こよなし		ク		1			
160								こわごわし		シク					1
161								さういなし	相違無	ク					1
162	○	○		○		○	○	さかし	賢	シク	8		1		
163			○	○	○	○	○	さだめなし	定無	ク	1				1
164		○		○		○		さはりなし	障無	ク				2	
165	○		○	○	○		○	さびし	寂・淋	シク	2			3	
166				○	○		○	さまあし	様悪	シク				1	
167	○	○	○	○	○	○		さむし	寒	ク	2	2		1	2
168	○	○	○	○	○			さやけし	清・分明	ク	1				1
169				○	○	○		さりがたし	去難・避難	ク				1	2
170			○	○	○	○	○	さりげなし	然気無	ク				1	
171			○	○	○	○	○	さわがし	騒	シク				2	1
172	○	○	○	○	○	○	○	しげし	繁・茂	ク	2	3		3	1
173								しさいがまし	子細	シク				1	
174		○		○	○	○	○	したし	親	シク				2	1
175				○	○	○	○	しどけなし		ク				1	
176			○	○	○	○	○	しのびがたし	忍難	ク	1			11	
177				○				しらじらし	白白	シク				1	
178								しりぞくかたなし		ク					1
179	○		○	○	○	○	○	しるし	知・灼・著	ク		2		12	1
180	○	○	○	○	○	○	○	しろし	白	ク	5	2		21	3
181	○			○				すがすがし	清清	シク					1
182			○	○			○	すぎうし	過憂	ク		2			
183				○		○		すぎがたし	過難	ク		1			
184	○	○	○	○	○	○	○	すくなし	少	ク				3	2
185			○	○	○		○	すごし	凄	ク			1	6	2
186		○	○	○	○	○	○	すさまし	凄	シク		1		10	4
187	○	○	○	○	○	○	○	すずし	冷・涼	シク	3	2			2
188								すすまし	進	シク				1	
189		○		○		○	○	すてがたし	捨難	ク			1	1	
190	○		○	○			○	すべなし	術無	ク	1				
191			○	○		○		すみうし	住憂	ク				1	
192			○	○	○	○	○	するかたなし	為方無	ク				2	
193	○	○	○	○	○	○	○	せばし	狭	ク	1				1
194					○		○	せんなし	詮無	ク				5	
195								そことなし		ク					2

国際研究論叢

NO.	上代	調点	八代	中古	軍記	今昔	擬古	見出し語	漢字	活用	海道記	東関	うたいね	とほず	竹むき
196				○	○		○	そこはかとなし		ク				1	
197				○				そぞろはし	漫	シク				4	
198				○	○	○	○	そらおそろし	空恐	シク				6	1
199								それとなし		ク				1	1
200	○	○	○	○	○	○	○	たかし	高	ク	14	7		10	4
201			○	○		○	○	たぐひなし	類無	ク	1	1			
202	○		○	○	○	○	○	たけし	武・猛	ク		1			
203		○		○	○	○	○	ただし	正	シク	2				2
204			○	○				たちうし	立憂	ク					1
205								たづねいでかたし	尋出難	ク				1	
206				○			○	たどたどし		シク					1
207				○		○		たのみなし	頼無	ク					1
208	○		○	○	○	○	○	たのもし	頼	シク	1	2		9	11
209				○				たのもしげなし	頼気無	ク					1
210	○	○		○	○	○	○	たふとし	貴・尊	ク	2	2		4	
211		○		○	○	○	○	たへがたし	堪難	ク				11	
212				○	○		○	ためしなし	例無	ク					1
213	○	○		○	○	○	○	たやすし	輒・容易	ク		1			1
214				○	○	○		たよりなし	便無	ク	1			3	
215								たらまし			1				
216	○	○	○	○	○	○	○	ちかし	近	ク	2	7		39	6
217		○		○	○	○	○	ちからなし	力無	ク				9	
218	○	○		○	○	○	○	ちひさし	小	ク				6	2
219								ちんじがたし	陳難		1				
220			○					つきがたし	尽難	ク		1			
221				○		○	○	つきづきし	付付	シク				1	
222	○	○	○	○	○	○		つたなし	怯・拙	ク				2	
223			○	○		○	○	つつまし	慎	シク				8	2
224								つなぎがたし	繫難		1				
225			○	○	○	○	○	つゆけし	露	ク				6	
226	○	○	○	○	○	○	○	つよし	強	ク	2			1	2
227	○		○	○	○	○	○	つらし	辛	ク				5	
228			○	○	○	○	○	つれなし	無情	ク	2			12	
229			○	○	○	○	○	ところせし	所狭	ク		1		8	
230		○		○		○		ところなし	所無	ク					
231	○	○	○	○	○	○	○	とし	利・敏・疾	ク	2				5
232	○	○	○	○	○	○	○	とほし	遠	ク	7	16			
233			○	○				とめがたし	止難	ク					1
234	○	○	○	○	○	○	○	ながし	長	ク	15	2		16	3
235								なかなかし							1
236					○		○	なごりをし	名残惜	シク	1			5	
237				○	○	○	○	なさけなし	情無	ク				12	
238	○	○	○	○	○	○	○	なし	無	ク	33	30		353	
239			○	○			○	なだかし	名高	ク	1	2			
240				○				なだたし	名立	シク				1	
241	○		○	○	○		○	なつかし	懐	シク	1			12	3
242				○		○	○	なにごころなし	何心無	ク				2	
243				○	○	○	○	なにとなし	何無	ク	2			38	6
244		○		○		○		なほし	直	ク					1

中世の日記・紀行文の形容詞

NO.	上代	訓点	八代	中古	軍記	今昔	擬古	見出し語	漢字	活用	海道記	東関	うたね	とはず	竹むき
245				○				なまさかし	生賢	シク				1	
246	○					○		なまし	生	シク	1				
247				○		○	○	なやまし	惱	シク				2	1
248								ならぶかたなし	習方無	ク					1
249								なることなし	成事無	ク					1
250					○		○	にがにがし	苦苦	シク				5	3
251				○		○		にぎははし	賑	シク				1	
252	○		○	○	○	○	○	にくし	憎	ク				1	
253				○				ねがはし	願	シク				1	
254								ねにくし	寝難	ク				1	
255			○	○	○		○	ねぶたし	眠・睡	ク				1	
256					○		○	ねんなし	念無	ク				4	2
257				○	○	○	○	のがれがたし	遁難	ク				3	1
258			○	○		○	○	のこりなし	残無	ク				1	1
259			○	○	○		○	のどけし	長閑	ク	1				
260				○				はえなし	映無	ク				4	
261				○			○	はえばえし	映映	シク				2	
262			○	○	○	○	○	はかなし	果無・果敢無	ク	3	3		6	2
263				○	○	○	○	はかばかし		シク			1	6	1
264		○	○	○	○	○	○	はげし	激・烈	シク		6		4	1
265				○	○	○	○	はしたなし	端	ク				4	
266	○		○	○	○	○	○	はづかし	恥	シク				3	1
267								はてしなし	果無	ク				1	
268			○	○			○	はなれがたし	離難	ク	1				
269				○				はばかりなし	憚	シク				1	
270								はばかりなし	憚	ク				1	
271	○	○	○	○	○	○	○	はやし	早・速	ク	7	1		2	
272	○		○	○		○	○	はるけし	遙	ク					1
273		○						はれがたし	晴難	ク					1
274				○				はれがまし	晴	シク				2	
275				○				はればれし	晴晴	シク					1
276				○				ひがひがし	僻僻	シク					1
277								ひきすてがたし	捨難	ク				1	
278	○	○	○	○	○	○	○	ひさし	久	シク	2			13	3
279				○			○	ひとわろし	人悪	ク				1	
280				○				びびし	美美	シク				1	
281			○	○	○	○	○	ひまなし	隙無・暇無	ク			1	10	4
282	○	○	○	○	○	○	○	ひろし	広	ク	3	2		1	2
283				○				びんあし	便悪	シク					3
284		○		○	○	○	○	びんなし	便無	ク				2	
285	○	○	○	○	○	○	○	ふかし	深	ク	15	14		41	13
286			○					ふみわけがたし	踏分難	ク					1
287	○	○	○	○	○	○	○	ふるし	古・旧	ク	2	4		9	1
288				○				ふるまひにくし	振舞難	ク				1	
289				○			○	へだてなし	隔無	ク				1	
290				○	○	○	○	ほいなし	本意無	ク				5	3
291	○		○	○	○	○		ほし	欲	シク				1	
292	○	○		○		○		ほそし	細	ク	1			1	1
293				○	○			ほどちかし	程近	ク				2	

国際研究論叢

NO.	上代	調点	八代	中古	軍記	今昔	擬古	見出し語	漢字	活用	海道記	東関	うたね	とはず	竹むき
294				○				ほどとほし	程遠	ク				1	
295		○	○	○	○	○	○	ほどなし	程無	ク	1			7	7
296				○			○	まがまがし	禍禍	シク				2	
297				○	○		○	まことし	実	シク				6	3
298		○	○	○	○	○	○	まさし	正	シク				3	
299	○		○	○			○	まだし	未	シク				1	
300	○	○		○		○	○	まづし	貧・貧窮	シク	4				
301								まよふかたなし	迷方無	ク					1
302				○	○	○	○	みぐるし	見苦	シク					1
303	○	○	○	○	○	○	○	みじかし	短	ク				1	
304				○		○	○	みすてがたし	見捨難	ク				1	1
305				○		○	○	むくつけし		ク				1	
306				○		○	○	むつかし	難	シク				41	2
307	○	○	○	○	○	○	○	むつまし	親・睦	シク				2	
308	○	○	○	○	○	○	○	むなし	空・虚	シク	9	3		39	4
309								めぐらしがたし	廻難	ク		1			
310							○	めだたし	目立	シク				2	
311	○		○	○	○	○	○	めづらし	珍	シク	5			9	14
312			○	○	○	○	○	めでたし	愛	ク				7	9
313					○			めはづかし	目恥	シク				1	
314			○	○	○		○	もどかし	擬・抵悟	シク				1	
315			○	○	○	○	○	ものうし	物憂	ク	1	2		12	
316				○			○	ものおほし	物思	シク				2	
317	○			○	○		○	ものがなし	物悲	シク		1		4	
318				○	○		○	ものさびし	物寂	シク				2	
319				○	○	○	○	ものさわがし	物騒	シク					2
320				○			○	ものし	物	シク					1
321				○	○			ものすさまじ	物凄	シク				1	
322				○			○	ものはかなし	物果無	ク					1
323				○			○	ものわびし	物侘	シク				1	
324	○		○	○	○		○	もろし	脆	ク				1	
325				○		○	○	やくなし	益無	ク	2				
326	○		○	○	○	○	○	やさし	恥・優	シク				2	
327	○	○	○	○	○	○	○	やすし	安・易	ク	2			2	
328			○	○	○	○	○	ゆかし		シク	3	1	1	18	1
329			○	○			○	ゆくへなし	行方無	ク				3	
330				○			○	ゆくりなし	率爾	ク					1
331	○		○	○	○	○	○	ゆゆし	齋忌・忌	シク				9	6
332				○				ゆるしがたし	許難	ク				1	
333				○		○		ゆゑなし	故無	ク			1		1
334				○		○	○	ゆゑゆゑし	故故	シク				1	
335								よがれなし	夜離無	ク				2	
336	○	○	○	○	○	○	○	よし	良・好・善	ク	3			13	4
337		○		○	○	○	○	よしなし	由無	ク	5			18	
338			○	○	○	○	○	よぶかし	夜深	ク				2	
339								よるかたなし		ク					1
340	○	○		○	○	○	○	よろし	宜	シク	1			2	2
341	○		○	○	○	○		よわし	弱	ク	3				
342	○	○	○	○	○	○	○	わかし	若	ク	5			11	1

中世の日記・紀行文の形容詞

NO.	上代	訓点	八代	中古	軍記	今昔	擬古	見出し語	漢字	活用	海道記	東関	うたね	とはず	竹むき
343				○				わきがたし	分難	ク				1	
344								わけがたし	分難	ク					1
345			○	○		○	○	わすれがたし	忘難	ク	1			11	
346		○		○		○		わたりがたし	渡難	ク				1	
347		○	○	○	○	○	○	わづらはし	煩	シク				3	2
348	○		○	○		○	○	わびし	侘	シク				31	4
349		○		○	○	○	○	わろし	悪	ク				4	
350				○	○	○	○	をかし	可咲・可笑	シク				13	5
351				○	○	○	○	をさなし	幼	ク	1			14	
352	○	○	○	○	○	○	○	をし	惜・愛	シク	4	2		6	
353				○				をやみなし	小止無	ク					1
354								をりやすし	折易	ク				1	

